# 公開シンポジウム

## 日本の２１世紀型
# 業務部門温暖化対策技術普及シナリオとは？

【主催】（独）国立環境研究所地球環境研究センター

【後援】 日本建築学会地球環境委員会温暖化対策小委員会
日本建築学会環境工学委員会都市環境･都市設備運営委員会サスティナブルシティ小委員会

日　時　：　2006 年 2 月 21 日（火）　13：00-18：30

会　場　：　つくば国際会議場大会議室 102（茨城県つくば市竹園 2-20-3）

内　容　：　京都議定書が発効され、いよいよ持続可能型社会への変換が求められている。2007 年に出版予定の IPCC 第 4 次報告書では、地球温暖化対策に関する実践として個別の対策技術に関する内容についてまとめられることが予想される。期待される対策効果を確実に評価するための業務部門対策技術普及シナリオとは？いったい何であろうか？現在進行形の活動報告から、あるべき技術の普及を見据えた技術開発の方向性を議論する。

**【 プログラム 】**

開会あいさつ　13：00-13：10　井上　元　国立環境研究所
（趣旨説明）　13：10-13：15　藤沼　康実　国立環境研究所
（第一部）13：15-15：00（プレゼン 15 分、質疑 5 分、司会まとめ 5 分）　司会　内海　康雄　宮城工業高等専門学校

**～対策技術普及シナリオ～**

① 13：15-13：35　インベントリと業務部門推計について　相澤　智之　国立環境研究所
② 13：35-13：55　業務部門エネルギー消費実態とその排出削減対策　外岡　豊　埼玉大学
③ 13：55-14：15　地域エネルギーシステムと対策技術普及シナリオ　下田　吉之　大阪大学
④ 14：15-14：35　脱温暖化社会 2050 シナリオと対策技術　藤野　純一　国立環境研究所
⑤ 14：35-14：55　Relation between regional carbon management and technology　Penelope Canan　GCP 国際オフィス

休　憩（10 分）

（第二部）15：10-16：55（プレゼン 15 分、質疑 5 分、司会まとめ 5 分）　司会　下田　吉之　大阪大学

**～環境評価ツールと予測システム～**

⑥ 15：10-15：30　建物の熱・空気についての節点系シミュレーションツールの現状
ーTRNSYS に見る事例ー　内海　康雄　宮城工業高等専門学校
⑦ 15：30-15：50　地球温暖化研究棟におけるケーススタディー　吉田友紀子　国立環境研究所
⑧ 15：50-16：10　CASBEE による業務部門対策の推進　伊香賀 俊治　慶應義塾大学
⑨ 16：10-16：30　GIS を用いた地域環境評価システムに向けて　佐土原 聡　横浜国立大学
⑩ 16：30-16：50　BEMS 制御技術の現状と将来　神村　一幸　㈱山　武

休　憩（15 分）

（第三部）17：10-18：20 ディスカッション（司会まとめ 5 分）司会　内海康雄　宮城工業高等専門学校、外岡　豊　埼玉大学

**”２１世紀型業務部門温暖化対策技術普及シナリオとは？”**

コメンテーター：伊香賀俊治（慶應義塾大学）、井上隆（東京理科大学）、佐土原聡（横浜国立大学）、下田吉之（大阪大学）、西岡　秀三（国立環境研究所）、Penelope Canan（GCP 国際オフィス）、山本昌宏（環境省地球環境局温暖化対策課）

閉会あいさつ　18：20-18:30　西岡　秀三　国立環境研究所

**シンポジウム参加費：無料　定員：100 名　インターネット；http://www-cger.nies.go.jp/index-j.html**

**申し込み方法：参加希望者は 2 月 10 日（金）までに E-mail にて、「シンポジウム参加申し込み」と表記の上、参加者氏名、所属、連絡先（TEL,E-mail）を明記して、下記までお申し込み下さい。**

**申し込み・問合せ：地球環境研究センター建物省エネ G 事務局 平野・吉田**
E-mail: taisaku-sinpo20060221@nies.go.jp　TEL:　029-850-2429　FAX:　029-858-2645